◎研修所紀行　　第５回

筑波銀行研修センター

今回は、筑波銀行研修センターを訪ねました。パソコンルームや端末ルームも完備されている研修センターです。筑波銀行の発足を機に、平成23年４月からは新入行員研修やキャリアデザイン研修等、学びの場として多くの行員に利用されています。

▲筑波研究学園都市を感じさせる外観。緑豊かな環境で学べる。

【研修所の特徴・仕様】
　竣　　工：昭和 63 年 10 月
　収容人数：最大 120 名（大研修室）
　宿泊室数：シングル 50 室、ツイン 27 室
【立地・アクセス】
　つくばエクスプレス線
　つくば駅から車で約 15 分

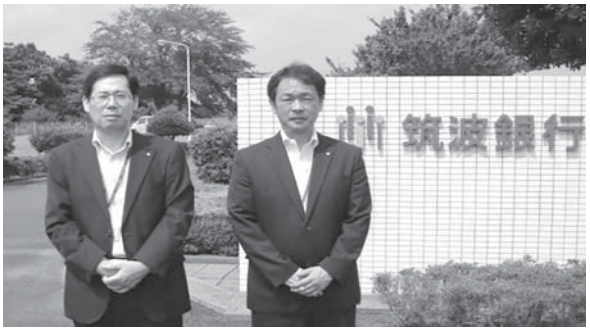
茨城県つくば市に位置する、筑波銀行研修センター。最寄駅の１つであるつくば駅には、都心の秋葉原駅からつくばエクスプレスに乗車して最速45 分で到着します。

今回取材にご協力いただいたのは、人事総務部人財開発室で、教育研修グループ長を務める上席主任調査役の並木裕（なみきゆたか）さんと、同室の長谷川正美（はせがわまさみ）さんです。

筑波銀行発足により同行研修センターに

――筑波銀行研修センターは、いつオープンしましたか。また、特徴的な研修内容・設備はありますか。

当センターは、平成 22 年３月の関東つくば銀行と茨城銀行の合併による筑波銀行の発足を機に、平成 23 年４月から当行の研修に利用されています。もともと他の民間企業が昭和 63 年に建設し利用していたものを、有効活用しています。



▲行員のキャリアを支える人財開発室の並木裕さん（右）と長谷川正美さん（左）

おもな研修の１つに、キャリアデザイン研修があります。入行３・６・10 年目の行員が対象で、自分のキャリアを振り返る機会をつくって、今後のキャリアデザインを考えてもらうために行っています。

また、研修アンケートでは、「ロールプレイング形式など、実践型の研修を企画してほしい」という要望が多く寄せられています。実践的な設備としては、ロープレ用模擬営業店という設備があります。実際の銀行窓口にあるハイカウンターや記帳台、ATM が設置されていて、窓口でのお客さま応対コンクールの際にも利用しています。

▲ロープレ用模擬営業店。窓口の順番を待つお客さま用のイスもあり、現場を忠実に再現。

▲ツインルーム。新入行員研修中、シングルルームとツインルームを交代で利用する。

学びの場は懇親の場としても大活躍

――こちらで研修を受けた皆さんからの評判はいかがですか。

当センターの交通アクセス上、家と研修センターを毎日往復することは難しいため、新入行員研修は約３週間の宿泊研修となっています。日中は研修、夜は自習を通して同期同士の絆を深めてもらっています。最初は毎日の宿泊に抵抗があった行員もいたようですが、「研修終了後に意見交換ができる機会もあって懇親を深められたのでよかった」という話も聞きます。

その他の同期同士が集まる研修でも、活躍する同期の姿を見ることで、良い刺激を受けられると考えています。

地域のために考動できる「人財」の育成を

――人財育成の理念と方向性についてお聞かせください。

当行では、平成 31 年４月から始まった合併後の第４次中期経営計画の基本戦略として、サービス品質のイノベーションを掲げています。地域のために考動できる「人財」を育成するために、融資・事業性評価に強い人財と、お客さま本位で質の高い資産形成の提案営業ができる人財の育成に取り組んでいます。入行６年目までは体系化されたプログラムに沿って育成していくため、研修やOJT、自己啓発について、相乗効果を発揮できるようにプログラムを組んでいます。中堅行員以降は、担当業務や職位に応じた育成を行います。

▲天井が高く、開放感のある食堂。窓から差し込む光が、テーブルを明るく照らす。

銀行業務検定試験の法務・財務・税務３級は、昇級基準の選択必須科目として設定しています。総合職・エリア総合職の場合、１等級（入行時）から１つ上の２等級に昇級するためには、法務・財務・税務３級のうち最低２種目は取得する必要があります。

入行から 10 ～ 15 年経つと、担当業務や家庭のことで忙しく、資格取得への取組みが難しくなることもあります。そのため、できるかぎり若いうちから計画的な学習に取り組んでもらえるよう、早期に全体的な底上げを図っていくことが大切だと考えています。

日本最大のサイエンスシティ

――最後に、つくば市のＰＲをお願いします。

昭和 62 年に４町村の合併により誕生したつくば市は、都内にあった国や民間企業の研究機関等が集結して、筑波研究学園都市となりました。約 300 団体ある研究機関に約２万人の研究者が勤めていて、日本最大のサイエンスシティといわれています。平成 17 年のつくばエクスプレスの開業により、筑波山への観光や都内への通勤も増え、住みやすい街であると実感しています。

（お忙しいなか、取材にご協力いただきました並木さんと長谷川さんには心から感謝申しあげます）